

分野	産業	※C欄の「◇」については、取組の方向性(左側)と具体的な取組等(右側)の繋がりがありません。	
現状と課題(A欄)		「目指すべきまちの姿」に進んでいくための基本的な方向性など(C欄)	
		(基本的な取組の方向性)	(具体的な手段・方法、取組など)
(現基本構想の進捗検証・評価) 全 ○ 高円寺地域では、文化施設である「座・高円寺」と商店街が連携した様々な取組が生まれ、現在、商店街全体を劇場にするという発想で取組が上手く進んでいる。 ○ “農”とのふれあいの機会が充実してきている。 (今後の社会環境や区民生活・意識の変化等の新たな視点) 全 ○ 杉並は区部西側に立地し、豊かな住宅環境があることから、イノベーションや新しいアイデアが生まれやすい。 ○ 職住一致の働き方が増えていく中で、区に住んで、区で働く人にとって過ごしやすいうちという視点が必要となる。 ○ 杉並は、農福連携の取組や都市農地の保全に強みを持っている。 ○ 特定生産緑地制度により、長く営農できるようになったが、担い手が少ない状況が続いていく。ただし、農地の減少幅は、農地の貸借制度等により、小さくなっていくと予想される。		① 住環境と調和しながら、文化的・創造的産業が芽生え根付いていくまち ○ 隣接区や同種の産業のある区と連携するなど、区域を超えた産業の発展を推進する。 ○ 観光事業の推進に当たって、近隣区や交流自治体等との連携をさらに強化する。 ○ 商店街支援や観光促進に文化的な視点を入れて、まちのにぎわいを創出する。 ○ 多様な人材の交流によりイノベーションが生まれ、新たな文化的・創造的産業につながることを支援する。 ○ 外国人観光客の誘致に向けて、区内に存在する日本文化に関する様々な資源を発掘する。 ○ コロナ禍で外国人観光客が減少していることから、新基本構想の前半の数期間は、地元(都内や関東近県含む)向けの施策に力をいれる。 ○ 商店街のほか、景観づくり、公園整備、農地保全や交通施策などと連携した取組のほか、ボランティア等を活用した観光事業を推進する。 ○ 高円寺の阿波踊りなどのストック(文化・魅力)の発信力を高める。 ◇ 区内のストックだけでなく、都心や高尾山へのアクセスのしやすさ等を含めた立地的な魅力も発信していく。	
目指すべきまちの姿(B欄)		② 多様な働き手が多様な働き方を選択でき、誰もがいきいきと活躍できるまち ○ 多世代やジェンダーレスなど様々な働き手が働く機会を持てるように、就労支援や地域の産業支援を推進する。 ○ 在宅勤務などが浸透していく中で、他区に比べて杉並区が住みやすく、かつ働きやすい魅力的な場所であることをブランディングする。 ○ 就労支援センターにおいて、ハローワークや福祉部門等の関係団体との連携をより強化しながら、伴走型、そしてオーダーメイド型の就労支援を充実させる。 ○ ブランディングにあたって、宣伝効果が大きいYouTubeやInstagram等のICTを活用した魅力発信を行う。	
(目指すべきまちの姿を設定した考え方など)		③ 環境に対する意識を高め、区内のみどりに関わる全ての産業を共に支え、守りつないでいくまち ○ 多くの区民や企業等が農にふれあう機会を創出するとともに、地元食材の活用等により、農地の多面的な価値を高める。 ○ 農業を産業、また農地を公共財として捉え、保全に向けて行政が積極的な関与を図る。 ○ シェフのオーダーに沿った質の高い農作物を育てて、美味しく食べるイベントを開催する。 ○ 区民農園や農福連携農園等の取組をさらに充実させるとともに、地産地消の取組を進める。 ○ 都市農地の保全について、税制度などの改正・改善に向け、国や東京都、JAなどの関係団体との連携を強化するとともに、貸借制度の活用に向けた取組を推進する。	
① ○ 住宅都市であることを踏まえ、都市と産業の共生・共存を目指す。 ○ 多様な人材からイノベーションが生まれることを誘発する。 ② ○ 多世代やジェンダーレスなど多様な働き手が、それぞれに合った多様な働き方のできる社会環境を整備する。 ○ 社会的な困窮者を生み出さないことは、産業政策のみならず地域の安定性を高めるためにも重要である。 ③ ○ 生物資源の保全と活用(地元食材の活用)により、農地の多面的な価値を高めていく。 ○ 農地の公益的な価値を捉え、維持保全に多くの人を関わらせていく。			